

令和5年度 第3回櫛引地域振興懇談会 (会議録・要旨)

○日 時：令和5年11月28日(火) 午後2時から午後4時まで

○会 場：櫛引庁舎 第一会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 釧持 孝文、遠藤 守、安野 良明、奥山 和行、五十嵐 誠一、上野 由部、秋山 彌里、
清和 ふみ子、宮城 妙、馬場 合

(欠席委員) 釧持 康光、佐藤 正幸、本間 与一、叶野 由佳、渡会 美香

(市側) 企画部政策企画課専門員 佐藤 紘司、地域振興課主任 北山 幸平、
櫛引庁舎支所長 天然 せつ、総務企画課長 遠藤 直樹、
市民福祉課長 佐藤 栄一、産業建設課長 佐藤 友志、
総務企画課課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査 河井 利恵子、
市民福祉課課長補佐 佐藤 千冬、産業建設課課長補佐 斎藤 秀一郎、
総務企画課未来事業推進員 渡部 綾

一 次 第 一

1 開 会

2 あいさつ

3 情報提供

(1) くしびき4保育園の統合について(案)

4 懇談

(1) 第3回鶴岡市総合計画審議会について

(2) 鶴岡市第2次総合計画後期計画地域振興の章〔櫛引地域〕(最終案)と
櫛引地域振興計画(案)について(資料1～資料2)

(3) その他

5 そ の 他

6 閉 会

.....

1 開会

総務企画課長

委員の皆様方にはご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日は委員15名のうち10名のご出席をいただいております。

只今から、令和5年度第3回櫛引地域振興懇談会を開会いたします。

最初に資料の確認でございますが、事前送付させていただいた資料一式(資料1-1～資料2-2)と、本日持参依頼した現行の振興計画書でございますが、もしお忘れの方、資料がない方がいらっしゃいましたら申し出ください。

また、本日配布の資料として、次第の差替え、出席者名簿と席次表、くしびき4保育園の統合について(案)、第3回鶴岡市総合計画審議会について、資料2-3 鶴岡市における櫛引地域振興施策の全体像、意見等記載用紙、を配布しておりますのでご確認をお願いします。資料はございますでしょうか。

2 あいさつ

総務企画課長

最初に、当懇談会会長の区長会会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長

皆さん、こんにちは。今回は第3回目ということで、前回は9月に第2回目の地域振興懇談会を開催しましたが、その時に出た意見も参考に資料を準備していただきましたので、今日は結論を出すために集まっていたかと思えます。結論が出たところで、来年の2月頃に最後の会議を開いて、今年度の地域振興懇談会は終了となりますので、皆様本日は忌憚のないご意見を出していただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

総務企画課長

ありがとうございました。続きまして、榎引庁舎支所長より挨拶申し上げます。

支所長

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中「第3回榎引地域振興懇談会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆様には、日頃から榎引地域の振興発展のために、それぞれのお立場で大変ご尽力いただいておりますことに対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、今も感染者がおりますし、市内小学校ではインフルエンザによる休校も報告されており、住民の皆様には引き続きそれらの感染リスクを気に留めるよう呼び掛けて参りたいと思えます。

さて、今年は記録的な猛暑、そして残暑もありましたが、最近はずっかり冬めいてきて、降雪の日もあるようです。

農業については猛暑の影響により、稲作では庄内の一等米比率は31.6%と低い結果となりましたが、品種で見ると雪若丸の比率が8割を超えており、県ではこれらを踏まえ短期・中長期の対策を検討するとのことでもあります。

榎引地域特産の果物については、今はリンゴの収穫が終盤となりましたが、今年は熊の出没が頻繁でリンゴ等の食害が報告されております。

猛暑と熊の被害により収量は奮いませんでしたが、食味は高温により糖度が増し、産直めぐりなどはまだ美味しい果物で賑わっているとお聞きしています。

皆様にはご不便をおかけしておりますが、榎引生涯学習センターの耐震改修工事の状況についてお知らせします。

工事の進捗は、12月末までで工程全体の約9割まで完了する予定であり、今後も今年3月末までの完成を目指し、4月からは通常どおりご利用いただけるように進めてまいります。

榎引温泉ゆ〜Townについては、オリジナルキャラクター「ゆ〜たん」が誕生し、今年度はコロナ禍前の平成元年に対し、利用者が増加している状況です。寒くなって参りましたので、皆さんも是非温泉で温まっていただければと思えます。

今年度、委員の皆様よりご意見を頂戴しています、「第2次鶴岡市総合計画」後期基本計画の地域振興の章の見直しと、その総合計画と連動する「榎引地域振興計画」の見直しについて、本日は、総合計画の方は今回が最終案としてご説明させていただきますので委員の皆様からは忌憚のないご意見を頂ければと存じます。

結びに、榎引地域の振興、発展のために委員の皆様が日頃感じていることや、地域活性化に向けたご提言などを合わせてご発言いただきながら、限られた時間ではありますが有意義な懇談会となりますようお願いを申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

総務企画課長

それでは3の情報提供に入ります。なお、ここからは、設置要綱第6条により、会長から議長を

務めていただきます。よろしくお願いいたします。

会長

それでは、（１）くしびき４保育園の統合について（案）の説明をお願いします。

3 情報提供

（１）くしびき４保育園の統合について（案）

説明・鶴岡市社会福祉協議会 榎引福祉センター長

（上記について、資料に基づきながら説明。）

会長

ただ今の説明を聞いて、何か質問等はありませんか。

A委員

質問が二つあります。一つ目は、なぜ令和７年に設定したのかということ。二つ目は、くしびき保育園は現在もあるのでそのままかと思いますが、くしびき西部保育園はこの実施年度の時から、そのままの名称でいくのかどうか。この２点をお伺いしたいです。

榎引福祉センター長

まず一つ目の質問についてですが、令和７年４月１日を目途に統合するという話ですけれども、詳細なことは事務局の方からは聞いてはいないのですが、東部と南部の園児数の減少もあり、経営的にも容易ではないということも聞いておりますし、入園者数が全体で１８０名だったというようなことも聞いています。令和６年度から統合するというのは急すぎるかと思いますので、１年間は住民の方への周知にあたり、令和７年度の統合に向けて進めていきたいという考えかと思います。

二つ目の保育園の名称についてですが、今のところは、くしびき保育園、くしびき西部保育園どちらも今のままの名称を使用することになると思います。

A委員

園児が減少しているのはわかります。おそらく近々こうなるだろうと私も思っていました、なぜ令和７年からの統合になるのかという理由を、親御さんたちが納得できるように説明していただくと有り難いと思いました。それと、やはりどこでもそうですが、自分の地域の学校や保育園等の名前が、統合されることによって無くなるのは当然ではありますが、そこに対する悲しみの感情もあると思うので、そういったところをしっかりと受け止めて、くしびき西部保育園でいきますということを説明していただくと非常に有り難いです。

榎引福祉センター長

わかりました。名称のことについても、私がこうだとは言えない立場ではありますので、今の意見は事務局の方にお伝えいたします。

C委員

鶴岡市には、保育園はかなりの数があると思いますが、このように統合することによって、そこで働いている保育士さんの待遇は変わのでしょうか。また、くしびき保育園は対象年齢が２か月～２歳児ということですが、東部と南部の２か月～２歳児もお世話になっているのか。その子供たちや令和７年度からの受け入れはそのままという形ですが、くしびき保育園は６か月から受け入れ

るのではないのか、というような要望等も出てくると思うのですが、その辺はどのようなやり方をするのでしょうか。

櫛引福祉センター長

まず一つ目の保育士についてですが、確かに統合すれば保育士さんは足りることにはなりますし、南部保育園、東部保育園は18時までなので、その部分は統合すると、受け入れの時間は長くなります。ただ、社会福祉協議会にはいろいろな専門職がいますので、職員の配置については、人事の方で適正に職員を配置すると思います。また、年齢の制限につきましては、西部については3歳児から5歳児まで、櫛引保育園については2ヶ月～2歳児というふうに、年齢によって分けての保育になると思います。もし兄弟がいる場合、2園に跨ることになるかもしれませんが、年齢による区分で受け入れさせていただきたいと思いますので、その辺はご了承いただきたいと思います。

支所長

東部、南部は現在6か月～5歳児までですが、くしびき保育園に統合になれば、2か月からの受け入れになるので、その部分はメリットかと思います。

櫛引福祉センター長

年齢によって区分できるというのはメリットということになります。

D委員

子供の人数が減るということはわかりましたが、予算は減ることにならないのでしょうか。

櫛引福祉センター長

予算については、全体的に厳しい財政状況になってはいますが、統合することによって、財政的にも少しは余裕ができるのではないかと考えています。

D委員

話を聞いていますと、子供の数よりも予算の縮小が一番の理由なのではないかと思いますが、その辺はどうでしょうか。

櫛引福祉センター長

定員の人数によって予算配分ということになりますので、その辺は適正に運営をしなければならないと思っています。

会長

それでは、4の懇談に移ります。(1)第3回鶴岡市総合計画審議会についてと、鶴岡市第2次総合計画後期基本計画地域振興の章見直し(最終案)と櫛引地域振興計画見直し(案)について、一括で説明をお願いします。

4 懇談

(1) 第3回鶴岡市総合計画審議会について

説明・政策企画課専門員

(上記について、資料に基づきながら説明。)

(2) 鶴岡市第2次総合計画後期計画地域振興の章〔櫛引地域〕（最終案）と
櫛引地域振興計画（案）について

・・・別添資料1～資料2

説明・総務企画課長補佐

（上記について、資料に基づきながら説明。）

会長

9月の懇談会を受けて資料をまとめていただいたと思いますが、今の説明を聞いて、何か質問や意見があればお願いしたいと思います。

A委員

資料1-2の上から4行目に「地域内外のたくさんの人々」という記載があり、ここに人々という言葉を使っているからかもしれませんが、その続きに「ここに住む人」という記載がありますが、この住む人という表現が気になりました。また、6ページの上から5行目に「若者や地域住民」と記載がありますが、じゃあ若者は地域住民ではないのか。そのように捉えられかねないので、なにか他に良い表現があればと思いました。

総務企画課長

一つ目の部分については、こういった表現が適切なのか、もう少し検討したいと思います。二つ目のことについては、前回の案には「若者」としか入ってなかったと思います。若者に限らず、地域住民の方々は色んな取組を行っているということで、地域住民を加えたのですが、並列するとおかしな文面になってしまったのかなと思いますので、適切な表現を考えたいと思います。

B委員

前回までの懇親会でのお話も、まとめてくださっていて、それが今回の資料に組み込まれていて、ありがとうございます。拝見していて、下線が入っている馬渡の桜並木や、観光周遊ルートの形成などが盛り込まれて入っているのはとても良いと思って拝見しているのですが、予算とも検討しつつ、実施できるようになっているのかと思いました。また、文章で色々説明されている中で、写真も多用して載せていただくようですが、ビジュアルでわかりやすいような、皆さんに伝わるような、絵や図などが入っているとより良いのではと思いました。

産業建設課長

私の方から予算についてですが、内部的な予算要求の際に、地域でこういったことをするか検討するわけですが、その大きな柱となるのが総合計画となります。この総合計画に載っていない事業があると、これはどういうことという話になるので、総合計画に載せることによって、逆に私たちはそれを実行する義務があるということになります。ですから、ここに載せることによって、予算もそれなりにつく可能性が高くなると考えます。

総務企画課長

産業建設課長からもありましたが、予算は要求してもつく、つかないということがあるので、我々も頑張って予算要求しているということをご理解いただきたいと思います。ビジュアルにつきましては、前回よりは少しまだ字が多いかと思いますが、何かわかりやすい見せ方はしたいと思います。前回も、桜の花びらで図解にしてキャッチコピーをつけてやったのですが、そのキャッチコピーを作る時にこの懇談会でも色々な意見があって、5年間経った今考えると、労力の割にはあまり効果が無かったかなと思っていました。ただ、そこはまた1枚で何かお見せできる部分、こ

のロジックツリーもありますが、ロジックツリーをそのまま見てもわからないと思うので、PR的に何か1枚でわかるようなものを検討させていただきます。

B委員

他の市町村の地域振興計画等を見ていると、新庄市は非常にわかりやすく伝わりやすいようなものになっていたの、楡引、鶴岡市もそのようなものになってほしいと思います。

政策企画課専門員

現在の総合計画は、全体版としての冊子と、もう少しわかりやすいものとして普及版というものを全戸配布しています。今回も全体版はどうしても文章が中心になってしまうので、概要版と、さらに8ページぐらいにまとめたものも検討しているところです。そこでぱっと見て、さらに気になるところがある人や詳しく読みたい人は全体版などを読んでもらう。そういった形の構成にしようかと今検討しているところで、皆さんに伝わりやすいような総合計画にしていきたいと思っています。

C委員

2019年度から振興計画を行っていますが、考えてみると、この5年間で何か変わったことはあるのでしょうか。少し関わってきた人間として、反省する部分もあるのですが、やはり計画を考えるのは大変大事なことだと思います。ですが、達成もできないような目標を立ててもしょうがないという考えが、市民の中にもあるのではないかと思います。その区切った期間で何をどれだけ達成したのかを示す必要があるのではないかと思います。その結果、これはできたけどこれはできなかったというものがわからないと、何か物足りなさを感じてしまって、言葉遊びで終わってしまうのではないかという気がしています。今回のこの計画も、まだ中間なのでそんなに明確にはならないかもしれませんが、また新たな計画を立てる時には、もっと具体的に、本当に明確な目標として達成できるようなものは何かということを示していただきたいと思います。先ほど保育所の統合の話もありましたが、保育所だけではなく、次は小学校や中学校も無くなってしまおうところが出てきてしまうと思います。無くなってしまってもしょうがないではなく、どうしなきゃいけないかというところを、やはりみんなでも検討して、その計画に盛り込んでいかないといけないのではないかと感じています。

総務企画課長

確かに箱物的なものは何も進歩していないかもしれないですが、例えば、ソフト的なことですが、果樹園の紹介所は合併時には無かったものができたりしています。全部ではなくても、少しずつは進歩していると思いますので、その辺はご了承いただきたいと思います。また、言葉遊びという点もありましたが、先ほど産業建設課長からもありましたが、計画に書いておかないと予算がつかない部分もありますので、言葉遊びで終わってしまう部分もあるかもしれませんが、そこはご了承いただければと思います。学校については、前回A委員からもありましたが、今回保育園のこともあったので、学校教育課に確認したところ、今現在は市で統合の計画は無いということは確認しております。

E委員

ちょうど予算の話が出たので、今これだけ頑張って最終案を出していただいて、確かに予算を通すのも大変だと思いますが、そこは今のお話の通り一つずつやっていって、達成していってほしいと思いますので、よろしくお願ひします。

A委員

先ほどC委員がおっしゃったことは、そういうことではないと思います。C委員はずっと議員をやられてきた中で、積み重ねてきた櫛引地域というものは、一体どこに発展性があったのか。今行政さんがやられていること一つ一つに対してマイナスを言っているわけではない。その積み重ねの中で、実際に自分たちは何をしてきたのか。そこを受け止めながら、次の発展を目指そうという意識を我々は持たなければいけない。そこが大事なのではないかと私は思っています。そこで、現在ある施設をいろんなところで活用し、しかしその活用する部分で、それを修復するとか、活用できるものに改めていくとかという言葉は一切出てこない。例えば、スキー場にあるほのかたらのきだいいですが、とてもじゃないけど今は使える状態ではないので、じゃあそこを整備するのですかっていってもそれはしない、おそらくできないだろうと思います。だとすると、活用するにはどうするか。そして、いろんな地域の施設設備を活用しながら、観光と結びつけていくという部分が結構出てきます。観光ということは、観光するお客様が来ないといけないですよ。お客様がその場を見たときに、やはりそこにあるものに目がいくのです。だから活用するのはいいですが、活用するためには、そこにやっぱり人が集まるような施設にしないといけない。王祇会館もそうですけれども無形文化財なので、そこをどう使っていくのか。この間、黒川さんは大変ですね。見るものないでしょ、無形なもの。と言われたことがありました。これはきつかったです。でも、じゃあそれをどう形にしていくか。と同じことで、活用するのがいいと思うのですが、お客さんから来てもらって、楽しめるような手だて、そこにはやっぱり金を積んでいかないといけない。だから、馬渡の桜並木もそうです。あの桜並木も今は馬渡に出来ていますが、最初は三千刈側に作ろうとした経緯があります。ところが、三千刈の方々が反対して、それで馬渡側にいったのです。その前に、馬渡の方に昔からある大きな桜があり、あそこの桜が凄く綺麗なんです。ですから写真を撮りに人もたくさん来ます。でも、せっかくその桜並木を作ったけれども、前の話にも出ていましたが、行政の方で直接積極的に手を出すということはないじゃないですか。あそこを守るのは地域の人。だから、そこに出てくる言葉が支援なのですが、支援っていうのはわかるのですが、支援のための積極的な働きかけを、行政さんの方でやっていただきたい。それがないと、地域の人には動けないのではないかと思います。そういったところを考えて、こういった計画の中にそういった言葉が表現として出てくると有り難いと思います。あとは、新しいものをやる時、大変な労力と時間が必要だろうと思います。でもそこにスタートラインを持っていかないと、何やっても同じだと思います。でも今回は、文書としての作りは頑張ってくれたと思います。ただ、先ほどお話があった通り、やはり市民にわかる文章というのは、言葉でだけではなく、目でわかるようなものを作っていただけると有り難いと思います。

産業建設課長

今、施設の活用についてお話がありましたが、確かに、今まで使っていた施設で使わなくなってしまったものも出てくるわけですが、その活用については今後見極めていかなければならないと思っています。これから人口減少もあり、施設や建物を維持していくには相当なお金がかかってきます。そうなった時に、どこの施設を整備するか等を見極めていく必要があると考えています。現在、色々な観光施設がありますが、個々の魅力を高めていくために、各施設の整備も行っていきたいと思っています。また、支援という面につきましても、どういった制度があるか市民の方々に伝わらなければ何もできないわけですので、こちらの方から積極的に情報提供をしたいと思っていますし、もしこういったことがやりたいというものがあれば、逆に市民の方から相談をするということもあるかと思っていますので、そういったことを行っていきたいと思っています。

会長

一つだけ教えていただきたいことがあるのですが、資料1-2の7ページ目の、単位自治組織の

地域ビジョン策定数の実績値が1組織となっていますが、これはどこのことでしょうか。

総務企画課長

宝谷地区になります。宝谷には地域おこし協力隊の方がいた時期があり、その方を受け入れるには、こういったビジョンを作っておかないといけないということがあって、行政でも力を入れて協力しました。ビジョンを作りたいというところが現れていただくのが一番手っ取り早いと思っていて、いくら働きかけても、こちらでは必要ないというところまではいけないので、少しでも興味があるようなところがありましたら、こちらとしても地域アドバイザー制度などもありますので、そういったものを活用しながら、地域づくりの支援等を行っていきたいと思います。

D委員

宝谷そばはテレビにも出て、土日は非常に賑わっていると伺っています。現在は、年配の方々が頑張ってお店を営んでいますが、跡を継ぐ若い人がいないことが課題かと思っています。やはりある程度、指導もしていかないと、都会に出ていってしまうと思います。宝谷の場合は、土日に営業をし、給料を少しだけ、小遣い程度でもというような気持ちでやっていますが、若い人から働いてもらうには、普通の働く人の給料でないとできないと思います。やはり未来事業でも、指導者というのがいないといけないと思うので、こういうことにも対応して行ってほしいと思います。

会長

何か他に質問や意見はありませんか。

F委員

広域コミュニティの部分にも入ってくると思うのですが、民間の担い手作りだったら、未来事業だと思いますが、そういったものは推進しなければならないと思います。ここに書いてあります、こういうコミュニティの検討というのは、この櫛引地域ではやはり避けられないような問題だと思います。実際は、どのような組織で、どのように動かしていくかというのが課題になると思いますが、もしそのコミュニティ組織を形成するのであれば、今までもあったとは思いますが、より具体的に検討して話し合っていく、そういった機会を作っていただくといいのかなと思いました。

支所長

合併して良かったのか悪かったのかという部分で一つあるのですが、産直めぐりは、櫛引町のめぐりだったときよりも、合併して鶴岡市になった方が、認知度がアップして売り上げが伸びたのです。やはりそういうふうに、一つのビジネスチャンスと思っていただいてもいいのかなと思います。生活シェアハウスも、櫛引の生活シェアハウスと言われるけれども、合併しましたので、鶴岡の生活シェアハウスというふうに認識されまして、他の地域の方も利用しているという事例があります。そういうふうに、今ある施設を全体に共有して生かしていくという、そういう考え方もあるのではないかなと思っています。

会長

H委員は何かありませんか。

H委員

私は前回の地域振興懇談会には出席できなかったのですが、私が考えていたのは、最近黒川能のイベントとよく関わっているのですが、地域振興計画の35ページにあります、イベント等での

集客だけではなく、地元の人でも櫛引の黒川能をよく知らない人も結構いるので、そういう人たちに理解を深められるようなイベント等を行って集客できたらいいかなと思いました。

A委員

今回、書かれていて大変有難かったのが、獅子舞、天狗舞についてです。他の地域を見ても、獅子舞と天狗舞が一緒になっているのは櫛引だけかと思いますので、今どういう状況なのか是非調査してみてください。今、鶴岡市の民俗芸能の組織団体を、おそらく来年度には作り上げるのは可能だと思っています。今年度中に内容を詰めて、やっていきたいと思っています。獅子舞に天狗舞がついているのはあまり無く、非常に貴重なものなので、この計画に記載されているのは非常に有り難いと思いました。

今回実は、11月23、24、25日と、別な組織体で、黒川で秋祭りを行ったのですが、23日は新嘗祭で能の奉納も行っており、新しい取り組みだったと思います。そういった新しい取り組みをするときに、今回も行政さんの方にもお力添えをいただいたのですが、そのときに、行政さんの方でも積極的にPRしていただきたい。地域のそういった取り組みを取り上げて、支援していただくと有り難いと思います。

あと、これはどうなのだろうと思っているのは、生き生きべんとう村という名前と、地域と、活用と、どういう連携をされているのでしょうか。結局あそこは、高速道路から直接降りられるようになっていますよね。私も生き生きべんとう村って言うているから、何か弁当に関わるようなことがあるのかなと思って行ったのですが、何も無いわけですね。この計画の文章にも載っているので、生き生きべんとう村をどう活用するのかということと、どう変化させていくのかだと思います。無くしてしまえばいいのか。そういう決断も必要なのかなと思います。細かいことを言えば、イバラトミヨも非常に貴重な魚なのですが、黒川能と同じで、櫛引地域の人全員がイバラトミヨの居場所知っているかと言われると、知らない人が多いと思います。黒川能は、赤川を渡って鶴岡側に来ると、意外と知らない。と同時に、赤川を渡って黒川の方の人は、イバラトミヨを全然知らない。とても貴重な生物なので、保護している団体さんにも働きかけながら、もう少し予算をつけていただいて、イバラトミヨの写真を展示したりなど、PRの仕方を考えていただけるといいかなと思います。

D委員

今イバラトミヨの話が出ましたが、この間、文化会館に県の教育委員会の関係で行ったのですが、東根市がイバラトミヨで地域おこしを行っていて、大変感心して聞いてきたのですが、やはり今までやってきたことをそのときだけで終わるのではなく、継続することも考える必要があるのではないかと思います。また、馬渡の桜並木ですが、大きな木の間に苗木を植えて育てていくということも考えてもらえたらと思います。

B委員

今まであった項目に関しては成果指標がありますが、新しい項目に関しては、何か成果指標等は設定されるのでしょうか。また、観光関係の成果指標でいうと、7ページに櫛引地域の年間観光入込客数という項目がありますが、この11施設がどちらの施設なのかにもよるかもしれませんが、人数が出ているということで、はたして経済効果がどのくらいあるのか。多分非常に少ないと思いますが、気になっているところです。観光連携を図るまでの成果指標みたいなものがあれば、こちらも合わせて詳しく提案していったほうがいいのではないかなと思いました。

政策企画課専門員

成果指標の追加のお話だと思いますが、全体的なお話をさせていただきますと、今回策定する後

期基本計画というのは、現在の計画の見直しであることから、基本的には現計画を踏襲する考えでおります。その上で、例えばコロナなどの影響により、5年前は想像もつかなかったことがあり、実行できなかったものなどについて修正や変更を検討しており、基本的には現在の成果指標を踏襲するというような考え方で進めております。また、総合計画に関しては、毎年、実施計画というものを策定しており、具体的な取組については、ここに記載されます。この実施計画の中で具体的な取組の進捗状況をはかってまいります。

B委員

観光連携についてもでしょうか。

政策企画課専門員

連携ではないですが、鶴岡市全体として、観光消費額という成果指標を観光に関する施策の大綱の中に設定しようかと協議はしているところです。今おっしゃられたように、国の方でも、インバウンドの方がどれだけ滞在して、地域への経済効果がどれくらいあるのかといったことなどを重視していると認識しています。今まで観光入込客数という成果指標にしていたのですが、コロナを機に、国の方針も踏まえて、変更を検討しているところです。

A委員

コロナ以前にもっていきこうとしているのですか。

政策企画課専門員

観光客については、コロナからの復活といった考えがありますが、現在、観光戦略という、総合計画の下の観光に関する計画の策定に向けて協議しており、観光消費額や、外国人に関して言えば、宿泊日数といった目標値を設定する国の方針も踏まえて、鶴岡市の観光に関しても今検討しているところです。

産業建設課長

生き生きべんとう村についてですが、確かに名前を聞くと何かあるのかと思われませんが、あのような施設でございます。高速道路からすぐ繋がっているという一面もあったのですが、実際は高速道路から行く人より、近隣の子どもの遊び場としての利用がメインとなっているようです。今、子ども達の間でゲーム等が流行っている中で、鶴岡市の子ども達は自然に触れ合えるような、何もないところが良いと、葉っぱや石ころで遊んだりする経験ができる場所になります。今は各小学校に是非利用してくださいと案内しています。その後市内全体の保育園や小学校にも、こういう施設があるので来てくださいというように、PRの仕方もあると思いますが、市の施設ですので、より多くの人に利用してもらえるように周知していきたいと思っております。

B委員

サインがわかりづらくて場所にたどり着けなかったのが、看板等を設置していただけると、一般の方でももっと行きやすい場所になるのではないかと思います。あと、ネーミングを逆手にとって、キャッチコピーをつけるのも良いと思います。

H委員

逆手にとったキャッチコピーはすでにあります。ネットを見ると出てきます。

B委員

キャッチコピーをつけるっていうのはやはり非常に有効だと私は思います。

F委員

私はたまたま携帯でGoogleをずっと見ていたのですが、SNSで生き生きべんとう村が出ていました。そこに東屋があって、親子連れでお弁当を食べるような場所。そういったSNS等の活用もあるでしょうし、あと今キャッチコピーのお話もありましたが、そういったもののレビューとかもつけていただくと、ネットで見た人も興味を持っていただけるのかなと思いました。

A委員

今お話がありました、何も無いところに子供たちを放して、その効果というのは非常にあります。しかしそれは、過去の経験からおいて、与える側がどういうふうにするかで、効果があるかどうかなんです。我々もよく子供たちを体育館に何も与えないで、道具はどうにでも自分たちがいいように出す仕組みをおいて動かせる。なぜそれをするかという、一人一人の子供がどういう行動をとって、その子がリーダー格の人間なのか、付随する人間なのか、孤立する人間なのか、ということ、黙って半日かけて見ました。ですから、何も無いものを与えるのはいいのだけでも、主催する側は、その効果をどう狙っているか。それを何の目的も無しに、放しておけばいいです。何もならない。やはり目的がないと駄目だろうと私は思います。生き生きべんとう村は何も無いところですよ。でもここに来るとこういう良いことがありますよ。そこで放されてみたら、あっ、あそこに何かあった。、とか、そういった気づきの中で、子供たちがいろんな遊びを作り上げていく。これは幼稚園でもやっていますよね。外に出すけど何も無い、ただ砂場があるとか、勝手に子供たちもそれを動かして、山を作ったり、そういうふうにする幼稚園。それはすべてがそうではないけれども、やっぱり与えるというのが大事だと思いますので、ただ単に何も無いところを作っておけばいいというのは、私は無責任だと思います。小学校でもそうです。中学校の子供たちだって、ああいうところに行ったら遊ぶんですよ。その遊ばせ方なので、そこをしっかりと形づくっていかないと、ただ、場所さえあればいいというのではないと思います。

会長

皆さん他になにかありませんか。G委員は何か一言ありませんか。

G委員

生き生きべんとう村の話がありました、私も関わっている、かじかの里というところがあるのですが、そこも市からの委託予算で、草刈りなどの管理を行っているのですが、お金をかけても、行政の方でどうしたいのか見えてこないということと、県の河川工事の中で整備したとは聞いていますけれども、目的が達成したのであれば、廃止の方に持って行って、お金をかけないほうがいいのではないかと思います。

産業建設課長

実は櫛引には森林公園が二つあるのですが、他のところも合わせると全部で六つあるのですが、やはりそれは本所の方でも、どうするかっていうのを検討する時期が来たという認識ではありません。全部廃止するのではなく、これは残して、これは辞めるっていうのを、総合的に判断して、今後検討するといった時期には来ていると考えております。

G委員

お金をかけるのであれば、地域住民がどうしたら良いかわからず、ただ管理はしていますとらないようにしてもらいたいです。

A委員

しかし、今年は生き活きべんとう村の辺りで熊は出ていましたでしょうか。

産業建設課長

今年は生き活きべんとう村には出ていませんが、西荒屋近辺では結構出没情報が出ていました。

G委員

熊が出没したとなると、是非使ってくださいとは言えないので、そこも管理が必要かと思えます。

会長

何か他に言い忘れたことがあれば、お願いします。

A委員

地域ストーリーというのがあったかと思いますが、これはおそらく、観光客にそのストーリーを作って、自分たちで作って回っていく。そういうイメージだったのかなと思うのですが、面白いと思うんですけども、頭で考えたストーリーだけではなく、足を使ってストーリーを考えられているのでしょうか。そうすると、ここで問題になるのは交通機関です。広域観光で、言葉で使っていますよね。広域観光で重要なのは、足ですよね。その足を伴った計画づくりをしていく必要があるのではないかと思います。それから、以前鶴岡を中心にして、色々な地域のポイントを設けてっていうのがありましたよね。そういったものはここに含んでいて、観光との繋がりを持っていけばそこにつなげていく。やはり交通機関がないと人を集める方法が無いとなかなか上手くいかないと思います。この間、JRのツアーで来たお客さんの中に、去年もツアーで来たとおっしゃっていた方とお話した中で、個人でも来たいと思いますかと聞いたところ、個人で来ると、鶴岡駅で降りても、庄内空港で降りても、そのあとの移動の仕方が、個人だとお金もかかるし非常に難しいということでした。なので、ツアーを組んでもらうと有り難いとおっしゃっていました。デマンドタクシーもあります。地域外の人が使えるのでしょうか。いろんな意味で、交通機関の新しい仕組みみたいなものを考えてもらえると有り難い。難しいかもしれないですが、観光客が活用できるという条件をもとに考えていただきたいと思います。

産業建設課長

二次交通の検討は以前からあったようですが、やはり今のこの実情から言うと、市街地からのアクセスは難しいということで、南部周遊ルートについても、マイクロツーリズムとって2、3時間で全て車で周れるルートを想定して、今回、南部広域観光ということで計画しております。やはり主な移動手段は自家用車になるかと思いますが、何か他のやり方を探っていきたいと思います。

A委員

インバウンドで来るお客様は、ほとんど通訳の方が車を用意して、それで回る方が多いです。現在一番多いお客様は台湾で、あとはアメリカやヨーロッパからも来ています。

B委員

タクシーを利用しているのでしょうか。

A委員

タクシーではなく、レンタカーを使うときもあるみたいです。レンタカーの方が実は安くなるようです。現在はいわゆる業者さん、来てくださるところの利用者さんがすべて手配して下さっているわけです。降りたところにレンタカーがすぐあればいいのですが、鶴岡駅前だと少し歩かないといけない。もしくは事前に予約しておいて、という動きをしないとイケない状態です。

総務企画課長

鶴岡駅前だと、以前ジャスコがあったところの隣辺りにあったと思います。

C委員

基本的にエリアが広いので、観光地を点で結ぶのが難しいというのは自分としても思っていて、そうすると当然マイカーをかなり使うことになります。観光協会でも、山形市のように土日の公用車を利用するという、こんなことをやっている自治体もあるという話をした覚えがあるのですが、そのように、最寄りのところからもし借りられる車があれば借りることができる。そういう何かを活用した仕組み作りをしていくのも一つの手なのではないかと個人的には考えています。

(3) その他

G委員

先ほどイバラトミヨの話がありましたが、それに対して予算はついているのでしょうか。

総務企画課長

イバラトミヨに関しては、昨年までは未来事業の中で、ポンプの電気料と借地料について予算をつけていましたが、今年から、環境課の組み換え予算に組み換えになっており、その部分は最低限の予算ではありますが、あそこは水を汲み上げないとイバラトミヨが生息できないので、その電気料は予算に入っていますし、あとPRの部分もありましたが、実はホームページにイバラトミヨのページはあります。ありますけども、どうしても生息地を知られてしまうと、捕りに行く人がいたら悪いので、場所は特定できないようなPRの仕方しかしていない状態です。あと、一応年度始めに飼育をして、その様子もアップしています。また、南小学校の方には確認して、授業で取り上げてもらっているということがありましたけれども、先ほどあった通り、東小や西小については、今後確認したいと思います。

先ほどいろいろ意見があった中で、広域コミュニティに関しては、なかなか難しい面があり浸透していない部分と、あと市内のコミセンの仕組みをそのまま楡引に導入されると、少し不具合があったりとかで、なかなか進んでいないという部分がありますが、今度ワークショップということで、地域住民を交えたワークショップを1月6日に開催予定で、年代も問わず、各地区から推薦してもらったり、一般公募でもやりたいと思いますし、その前段で、コミュニティや地区に関する質問のアンケートですが、楡引中学校の全生徒から書いてもらうようお願いしています。広域コミュニティやコミュニティの方に振ったようなアンケートですが、近年、そういうふうには中学生からの意見を聞いていなかったもので、その結果も参考にしていきたいと思います。

あと、集客についてですが、先ほどA委員やH委員からもありましたが、県内外だけでなく、地元からも参加してもらおうということで、今回の黒川の秋祭りでも、縁日等を開催し、西地区や市内からもお客様が来ていただいていたので、大変良い取り組みだと思いました。あと、獅子舞と天狗舞については、楡引独自でやるよりも市全体で考えて、社会教育課とタイアップして何かやったほうがいいのではないかと思いますので、お願いしたいと思います。

A委員

先ほどお話にもありましたが、かじかの里のかじかは捕ってはいけないのでしょうか。

G委員

それはちょっとわからないです。

総務企画課長

漁業権があると駄目かもしれませんが、そこは調べてみないとわからないです。

会長

その他、何かありませんでしょうか。無ければ協議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

5 その他

総務企画課長

会長、進行、どうもありがとうございました。
それでは、その他としまして、支所長よりご挨拶がございます。

支所長

新聞の記事でご覧になった方もいらっしゃると思いますが、一身上の都合で、今月いっぱい退職させていただきます。後任については、ここにおります産業建設課長が務めます。また、産業建設課長には、産業建設課長補佐が当たりますので、私同様、ご指導、ご鞭撻いただければと思います。

総務企画課長

それでは、他に皆さんから何かありませんでしょうか。
それでは、次回の予定としましては、2月下旬から3月中旬の間に開催したいと考えています。今回総合計画の最終案ということで、本日いただいた意見も踏まえて修正させていただいて、政策企画課に提出させていただきます。振興計画の方は、次が最終案ということでご説明いたしますし、次年度予算の説明もさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。
それではこれもちまして、第3回櫛引地域振興懇談会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

終了 16時00分